

薬物依存症者等サポート事業の 取組みについて ～相談の実際～

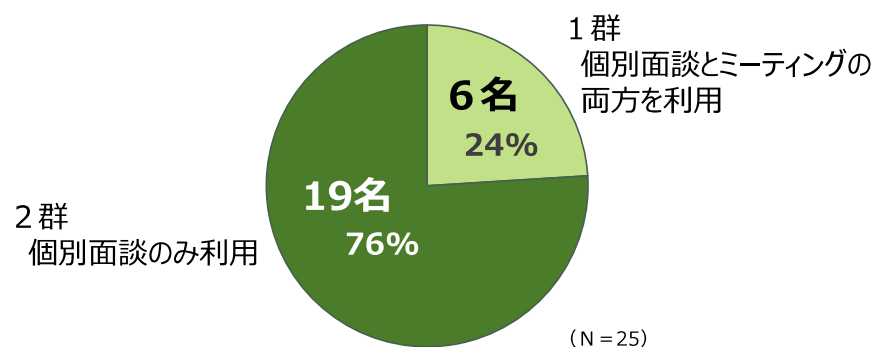


大阪市西成区保健福祉センター
保健福祉課

目的

本事業の相談者の状況を振り返り、
事業の効果と今後の支援について考察する

相談者の状況



支援内容

1群

【特徴】

これまでに回復施設や自助グループの参加経験がある人が多い。

相談者全員が福祉サービスや回復施設・自助グループ、就労等につながっており、事業終了後も断薬継続が見込まれる。

2群

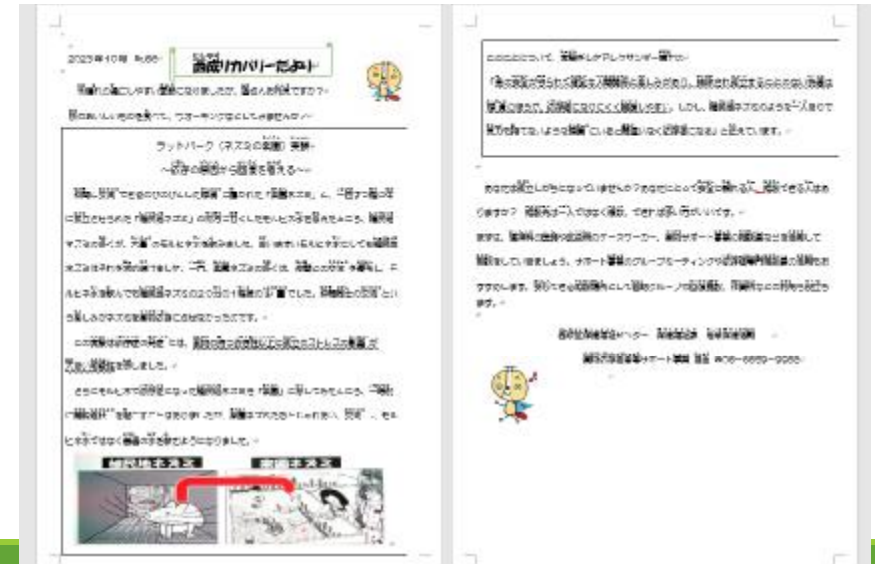
【特徴】

人前で話すことが苦手、参加すると使用欲求が高まる等の不安を訴え、ミーティングの参加につながらない。

個別面談で、日常的な社会生活の送り方を確認し、断薬を続ける生活を語ることで自己肯定感を高め面談を継続している。福祉サービスや回復施設、就労につながっている者が8名いる。

考察

- ◆ 1群：支援効果が高く、自立した断薬継続が期待できる
- ◆ 2群：社会性に乏しく、日常の様々な問題に対処できず、悩みを抱えやすい
 - ➡ 行政機関が実施することで、予約日以外に気軽に相談来所でき、些細な生活上の困りごとなどを解決できる場としてつながり続ける
 - ➡ 薬物使用のリスクを下げる意味がある



まとめ

【本事業の特徴】

- ① 断薬を含め相談者の地域生活全体を見据えた支援
- ② 相談者の特性や回復段階に応じて、個別面談とミーティング等を組み合わせて実施

「つながる場」としての役割

生活のしづらさと孤独感の軽減が図れるよう「場」として支援

回復のための4つ目の選択肢